2015 年フルクテンバウム博士セミナー

終末論のクライマックス

講師：アーノルド・フルクテンバウム博士
通訳：中川健一

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

目　次

再臨の前提条件　THE BASIS OF THE SECOND COMING OF THE MESSIAH 1

INTRODUCTION　（はじめに） 1

Ⅰ. THE REJECTION OF HIS MESSIAHSHIP（イエスのメシア性の拒否） 1

A. The Sign of the Resurrection: Matthew 12:38-40（復活のしるし：マタ 12：38〜40） 3

B. Swept, Garnished, and Empty: Matthew 12:41-45（掃除され、片付いており、空き家になっている：マタ 12：41〜45） 3

C. The Sign of Jonah: John 11:1-57（ヨナのしるし：ヨハ 11：1〜57） 4

D. The Sanhedrin's Verdict: John 11:47-50 and 53（サンヘドリンの判決：ヨハ 11：47〜50、53） 5

E. The Triumphal Entry: Luke 19:41-44（勝利の入城：ルカ 19：41〜44） 5

F. The Pharisees Denounced: Matthew 23:1-36（糾弾されるパリサイ人たち：マタ 23：1〜36） 6

Ⅱ. THE PREREQUISITE TO THE SECOND COMING（再臨の前提条件） 7

A. Leviticus 26:40-42（レビ 26：40〜42） 7

B. Jeremiah 3:11-18（エレ 3：11〜18） 7

C. Zechariah 12:10　（ゼカ 12：10） 8

D. Hosea 5:15（ホセ 5：15） 8

E. Matthew 23:37-39（マタ 23：37〜39） 9

反キリストの興隆と滅亡　THE RISE AND FALL OF THE ANTICHRIST 11

INTRODUCTION　（はじめに） 11

Ⅰ. THE NAMES OF THE ANTICHRIST（反キリストの呼び名） 11

Ⅱ. THE ORIGIN OF THE ANTICHRIST（反キリストの起源） 12

A. His Natural Origin: Daniel 9:26-27（反キリストの自然な起源：ダニ 9：26〜27） 12

B. His Supernatural Origin: Genesis 3:15（反キリストの超自然的起源：創 3：15） 12

Ⅲ. THE REVELATION OF THE ANTICHRIST（反キリストの啓示） 13

Ⅳ. THE ANTICHRIST AND THE START OF THE TRIBULATION（反キリストと大患難時代の始まり） 14

Ⅴ. THE RISE OF THE ANTICHRIST（反キリストの興隆） 15

A. Political Control（政治的支配） 16

B. Religious Control（宗教的支配） 17

Ⅵ. THE DEATH AND RESURRECTION OF THE ANTICHRIST（反キリストの死と復活） 17

Ⅶ. THE ABOMINATION OF DESOLATION（荒らす憎むべきもの） 19

A. The Act（行為） 19

B. The Two Stages（2 つの段階） 20

Ⅷ. THE MARK OF THE BEAST（獣の刻印） 22

Ⅸ. THE FALL OF THE ANTICHRIST（反キリストの滅亡） 23

ハルマゲドンの戦い THE CAMPAIGN OF ARMAGEDDON 27

INTRODUCTION AND BACKGROUND INFORMATION（イントロダクションと背景情報） 27

Ⅰ. THE FIRST STAGE: THE ASSEMBLING OF THE ALLIES OF THE ANTICHRIST（第 1 段階：反キリストの同盟軍の召集） 28

Ⅱ. THE SECOND STAGE: THE DESTRUCTION OF BABYLON（第 2 段階：バビロンの滅亡） 30

Ⅲ. THE THIRD STAGE: THE FALL OF JERUSALEM（第 3 段階：エルサレムの陥落） 31

Ⅳ. THE FOURTH STAGE: THE ARMIES OF THE ANTICHRIST AT BOZRAH（第 4 段階：ボツラでの反キリストの軍勢） 32

Ⅴ. THE FIFTH STAGE: THE NATIONAL REGENERATION OF ISRAEL（第 5 段階：イスラエルの国家的新生） 33

A. The National Confession of Israel（イスラエルによる国家的罪の告白） 33

B. The Plea of Israel（イスラエルの懇願） 33

Ⅵ. THE SIXTH STAGE: THE SECOND COMING OF THE MESSIAH（第 6 段階：メシアの再臨） 35

A. Isaiah 34:1-7（イザ 34：1〜7） 35

B. Isaiah 63:1-6（イザ 63：1〜6） 35

C. Habakkuk 3:3（ハバ 3：3） 36

D. Micah 2:12-13（ミカ 2：12〜13） 36

E. Judges 5:4-5（士 5：4〜5） 37

Ⅶ. THE SEVENTH STAGE: THE BATTLE FROM BOZRAH TO THE VALLEY OF JEHOSHAPHAT（第 7 段階：ボツラからヨシャパテの谷に至る戦い） 37

Ⅷ. THE EIGHTH STAGE: THE VICTORY ASCENT UP THE MOUNT OF OLIVES（第 8 段階：勝利の後オリーブ山に立つ） 38

御国以降 AFTER THE KINGDOM 41

Ⅰ. THE LOOSING OF SATAN AND THE FINAL INVASION OF ISRAEL（サタンの解放とイスラエルへの侵攻） 41

Ⅱ. THE GREAT WHITE THRONE JUDGMENT（大いなる白い御座の裁き） 42

A. The Principle of Degrees of Punishment（罰の軽重を決めるための原則） 43

B. The Books Which Determine the Degrees of Punishment（罰の軽重を決める書物） 44

Ⅲ. THE SECOND RESURRECTION（第 2 の復活） 45

Ⅳ. THE SECOND DEATH: THE LAKE OF FIRE（第二の死：火の池） 45

永遠の秩序 THE ETERNAL ORDER 49

INTRODUCTION（はじめに）……49
Ⅰ. THE PASSING AWAY OF THE OLD ORDER AND THE CREATION OF THE ETERNAL ORDER: REVELATION 21:1-8（古い秩序の消滅と永遠の秩序の創造：黙 21：1〜8）……49
Ⅱ. THE ETERNAL NEW JERUSALEM: REVELATION 21:9-22:5（永遠の新しいエルサレム：黙 21：9〜22：5）……51
A. The Revelation of the Establishment of the City: Revelation 21:9-10（新しい町の設立に関する啓示：黙 21：9〜10）……52
B. The Description of the New Jerusalem: Revelation 21:11-22:5（新しいエルサレムの描写：黙 21：11〜22：5）……52

MEMO

再臨の前提条件
THE BASIS OF THE SECOND COMING OF THE MESSIAH

INTRODUCTION　（はじめに）

＊携挙と再臨は、明確に異なる 2 つの出来事である。
＊携挙の場合は、前提条件がないので、いつでも起こり得る。
　・携挙は、大患難時代の前に起こるが、どれくらい前かは分からない。
＊再臨の場合は、いくつかの前提条件がある。
　・本課の目的は、その前提条件について学ぶことである。

Ⅰ．THE REJECTION OF HIS MESSIAHSHIP（イエスのメシア性の拒否）

＊マタイの福音書では、イエスの公生涯は 4 章から始まる。
＊4 章～12 章、イエスは御国の福音を宣べ伝えている。
　・この間の奇跡は、メシア性とメッセージの信頼性を証明するものである。
＊マタ 12：22～37、イエスのメシア性の拒否

＊ユダヤ人たちも、悪霊を追い出していた（27 節）。
＊イエスは、ユダヤ人たちの方法を採用していた（ルカ 8：30）。
＊口をきけなくする悪霊の追い出しは、メシア的奇跡と考えられていた。
　・マコ 9：17～29、特に、17、25、29 節

＊22 節

22　そのとき、悪霊につかれて、目も見えず、口もきけない人が連れて来られた。イエスが彼をいやされたので、その人はものを言い、目も見えるようになった。

＊23 節

23　群衆はみな驚いて言った。「この人は、ダビデの子なのだろうか。」

・群衆は、判断をパリサイ人たちに委ねた。
・パリサイ人たちは、イエスがメシアであるのかないのかの判断を迫られた。

＊24 節

24 これを聞いたパリサイ人は言った。「この人は、ただ悪霊どものかしらベルゼブルの力で、悪霊どもを追い出しているだけだ。」

・パリサイ人たちは、イエスのメシア性を拒否した。
・イエスは、ベルゼブルに憑かれていると説明した。
・この教えが、「パリサイ人のパン種」である（ルカ 12：1）。

＊25～29 節

25 イエスは彼らの思いを知ってこう言われた。「どんな国でも、内輪もめして争えば荒れすたれ、どんな町でも家でも、内輪もめして争えば立ち行きません。
26 もし、サタンがサタンを追い出していて仲間割れしたのだったら、どうしてその国は立ち行くでしょう。
27 また、もしわたしがベルゼブルによって悪霊どもを追い出しているのなら、あなたがたの子らはだれによって追い出すのですか。だから、あなたがたの子らが、あなたがたをさばく人となるのです。
28 しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。
29 強い人の家に入って家財を奪い取ろうとするなら、まずその人を縛ってしまわないで、どうしてそのようなことができましょうか。そのようにして初めて、その家を略奪することもできるのです。

・イエスは、パリサイ人たちの教えに反論された。

＊30～37 節

30 わたしの味方でない者はわたしに逆らう者であり、わたしとともに集めない者は散らす者です。
31 だから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒涜も赦していただけます。しかし、御霊に逆らう冒涜は赦されません。
32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも、赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、だれであっても、この世であろうと次に来る世であろうと、赦されません。
33 木が良ければ、その実も良いとし、木が悪ければその実も悪いとしなさい。木のよしあしはその実によって知られるからです。
34 まむしのすえたち。おまえたち悪い者に、どうして良いことが言えましょう。心に満ちていることを口が話すのです。
35 良い人は、良い倉から良い物を取り出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を取り出すものです。

36 わたしはあなたがたに、こう言いましょう。人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。
37 あなたが正しいとされるのは、あなたのことばによるのであり、罪に定められるのも、あなたのことばによるのです。」

・その世代の者たちの上に下る裁きが宣言された。
・31 節　その世代の者たちは、赦されない罪を犯した（聖霊を冒涜した）。
・これは個人的な罪ではなく、国家的罪である。
・その世代の者たちの罪であり、後代のユダヤ人に適用すべきではない。
・個人として救いに入ったユダヤ人は、多くいた。
・裁きは、紀元 70 年に下った。エルサレム神殿の崩壊とユダヤ人の離散。

A. The Sign of the Resurrection: Matthew 12:38-40（復活のしるし：マタ 12：38〜40）

38 そのとき、律法学者、パリサイ人たちのうちのある者がイエスに答えて言った。「先生。私たちは、あなたからしるしを見せていただきたいのです。」
39 しかし、イエスは答えて言われた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。だが預言者ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。
40 ヨナは三日三晩大魚の腹の中にいましたが、同様に、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。

＊38 節　パリサイ人たちは「しるし」を求めた。
＊39 節　イエスは、方針の変更を宣言された。
　・奇跡は、メシア性を証明するためのものではなくなる。
　・奇跡は、弟子訓練のためのものとなる。
＊その世代の者たちには、「ヨナのしるし」だけが与えられる。
　・ラザロの復活（ヨハ 11：1〜46）
　・イエスの復活（マタ 16：1〜4）
　・2 人の証人の復活（黙 11：3〜13）
＊最初の 2 つは拒否され、最後のしるしが受け入れられる。

B. Swept, Garnished, and Empty: Matthew 12:41-45（掃除され、片付いており、空き家になっている：マタ 12：41〜45）

41 ニネベの人々が、さばきのときに、今の時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし、見なさい。ここにヨナよりもまさった者がいるのです。
42 南の女王が、さばきのときに、今の時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果てから来たからです。しかし、見なさい。ここにソロモンよりもまさった者がいるのです。

43 汚れた霊が人から出て行って、水のない地をさまよいながら休み場を捜しますが、見つかりません。
44 そこで、『出て来た自分の家に帰ろう』と言って、帰って見ると、家はあいていて、掃除してきちんとかたづいていました。
45 そこで、出かけて行って、自分よりも悪いほかの霊を七つ連れて来て、みな入り込んでそこに住みつくのです。そうなると、その人の後の状態は、初めよりもさらに悪くなります。邪悪なこの時代もまた、そういうことになるのです。」

＊その世代の者へのさらなる裁きのことばが宣告されている。
＊その世代の者（邪悪なこの時代）という言葉に注目。
＊41 節　ニネベとの対比
＊42 節　南の女王との対比

＊43〜45 節　悪霊の話
・聖霊を心に迎えないなら、空き家の状態である。
・元の悪霊が他の 7 つの悪霊を連れて来る。
・バプテスマのヨハネの奉仕は、イスラエルの家の掃除と片付けであった。
・しかし、イエスを心に迎えなかったので、最後は最初の状態よりも悪くなる。
・ローマの支配下にあった時よりも、離散の状態の方が悲惨である。

C. The Sign of Jonah: John 11:1-57（ヨナのしるし：ヨハ 11：1〜57）

＊マタ 12 章以降も、パリサイ人たちは「しるし」を求めた（マタ 16：1〜4）。
＊イエスは、ヨナのしるし以外は与えないと応答された。

＊ヨハ 11：1〜44　ラザロの復活は、最初のヨナのしるしである。
・44 節もある理由は、これがヨナのしるしだからである。
＊42 節

42 わたしは、あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを知っておりました。しかしわたしは、回りにいる群衆のために、この人々が、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じるようになるために、こう申したのです。」

・これは、群衆のための「しるし」である。

＊45〜46 節

45 そこで、マリヤのところに来ていて、イエスがなさったことを見た多くのユダヤ人が、イエスを信じた。
46 しかし、そのうちの幾人かは、パリサイ人たちのところへ行って、イエスのなさったことを告げた。

・最初のヨナのしるしに正しく応答した人たちは、イエスを信じた。
・パリサイ人たちの判断を求めた人たちもいた。

D. The Sanhedrin's Verdict: John 11:47-50 and 53（サンヘドリンの判決：ヨハ 11：47〜50、53）

47 そこで、祭司長とパリサイ人たちは議会を召集して言った。「われわれは何をしているのか。
あの人が多くのしるしを行っているというのに。
48 もしあの人をこのまま放っておくなら、すべての人があの人を信じるようになる。そうなる
と、ローマ人がやって来て、われわれの土地も国民も奪い取ることになる。」
49 しかし、彼らのうちのひとりで、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った。「あなた
がたは全然何もわかっていない。
50 ひとりの人が民の代わりに死んで、国民全体が滅びないほうが、あなたがたにとって得策だ
ということも、考えに入れていない。」……
53 そこで彼らは、その日から、イエスを殺すための計画を立てた。

＊イエスのメシア性を拒否したところから、死刑宣告に進んだ。

＊54〜57 節　サンヘドリンの判決の結果
・54 節　イエスはしばらくの間姿を消す。
・55〜56 節　群衆はイエスに関する質問を繰り返す。
・57 節　サンヘドリンの判決が民衆レベルにまで影響を及ぼす。

57 さて、祭司長、パリサイ人たちはイエスを捕らえるために、イエスがどこにいるか
を知っている者は届け出なければならないという命令を出していた。

＊第 1 のヨナのしるしは、拒否された。

E. The Triumphal Entry: Luke 19:41-44（勝利の入城：ルカ 19：41〜44）

41 エルサレムに近くなったころ、都を見られたイエスは、その都のために泣いて、
42 言われた。「おまえも、もし、この日のうちに、平和のことを知っていたのなら。しかし今は、
そのことがおまえの目から隠されている。
43 やがておまえの敵が、おまえに対して塁を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄せ、
44 そしておまえとその中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石
の上に積まれたままでは残されない日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知
らなかったからだ。」

＊38 節　「祝福あれ。主の御名によって来られる王に」という歓迎の言葉
＊詩 118：26 の引用。メシアを迎える正式な言葉である。
＊民衆はイエスをメシアとして迎えたが、イエスはエルサレムに下る裁きを宣言された。
＊指導者たちがイエスのメシア性を拒否し、赦されない罪を犯したから。

F. The Pharisees Denounced: Matthew 23:1-36（糾弾されるパリサイ人たち：マタ 23：1〜36）

＊1〜12 節　偽善の罪
＊13〜14 節　民をメシア性の拒否に導いた罪
＊15 節　改宗者を堕落させる罪
＊16〜22 節　口伝律法によりモーセの律法を無効にする罪
＊23〜24 節　小さい事にばかりこだわる罪
＊25〜28 節　外面のみにこだわる罪
＊29〜36 節　預言者たちを拒否する罪

1. Matthew 23:13（マタ 23：13）

13 わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは人々から天の御国をさえぎっているのです。自分も入らず、入ろうとしている人々をも入らせません。

＊この節は、再臨の前提条件を理解するために重要である。

2. Matthew 23:29-36（マタ 23：29〜36）

29 わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは預言者の墓を建て、義人の記念碑を飾って、
30 『私たちが、父祖たちの時代に生きていたら、預言者たちの血を流すような仲間にはならなかっただろう』と言います。
31 こうして、預言者を殺した者たちの子孫だと、自分で証言しています。
32 おまえたちも父祖たちの罪の目盛りの不足分を満たしなさい。
33 おまえたち蛇ども、まむしのすえども。おまえたちは、ゲヘナの刑罰をどうしてのがれることができよう。
34 だから、わたしが預言者、知者、律法学者たちを遣わすと、おまえたちはそのうちのある者を殺し、十字架につけ、またある者を会堂でむち打ち、町から町へと迫害して行くのです。
35 それは、義人アベルの血からこのかた、神殿と祭壇との間で殺されたバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上で流されるすべての正しい血の報復がおまえたちの上に来るためです。
36 まことに、おまえたちに告げます。これらの報いはみな、この時代の上に来ます。

＊指導者だけでなく、国全体に裁きが下る。
＊旧約聖書のすべての預言者たちの血に対する責任がある。
＊ユダヤ人の聖書の最初の書は、創世記である（アベルが登場する）。
＊最後の書は、歴代誌第二である（ゼカリヤが登場する）。
＊彼らは、先祖たちの例に倣って不信仰の道を歩んだ。
＊この裁きは、赦されない罪に対するものである。

＊イエスが裁きを宣言してから数日後に、第 2 のヨナのしるしが与えられた。
＊イエス自身の復活がそれである。
＊これは、使 1〜7 章で拒否された。
　・ステパノの殉教は、第 2 のヨナのしるしの公式な拒否である。
　・使 8 章になってようやく、福音は初めて異邦人世界に届けられる。

＊ヘブル人への手紙は、迫害のゆえにユダヤ教に回帰することを考えていたユダヤ人信者に向けられたものである。
　・イエスを拒否したユダヤ教とは、完全に分離するように勧められている。
　・もし分離しないなら、紀元 70 年の裁きに巻き込まれ、死を迎える。
＊ヘゲシピアス（2 世紀のメシアニックジューの歴史家）の証言
　・ヨセフス、エウセビオス（教父）が、それを引用している。
＊紀元 66 年に、メシアニックジュー全員がヨルダン川の東のペラに移住した。
＊ユダヤ反乱では、110 万人のユダヤ人たちが死んだ。
＊メシアニックジューは、ひとりも死ななかった。

II．THE PREREQUISITE TO THE SECOND COMING（再臨の前提条件）

A.　Leviticus 26:40-42（レビ 26：40〜42）

40 彼らは、わたしに不実なことを行い、わたしに反抗して歩んだ自分たちの咎と先祖たちの咎を告白するが、
41 しかし、わたしが彼らに反抗して歩み、彼らを敵の国へ送り込んだのである。そのとき、彼らの無割礼の心はへりくだり、彼らの咎の償いをしよう。
42 わたしはヤコブとのわたしの契約を思い起こそう。またイサクとのわたしの契約を、またアブラハムとのわたしの契約をも思い起こそう。そしてわたしはその地をも思い起こそう。

＊レビ記 26 章　不信仰のゆえのユダヤ人の世界離散が預言されている。
＊新約聖書によれば、メシア拒否の結果これが起こった。
＊レビ 26：39 までは、すでに成就している。

＊42 節　アブラハム契約の祝福が約束されている。
＊40 節　そのためには、先ず「咎」を告白する必要がある。
　・「咎」は単数形である。
　・メシアを拒否した「咎」である。

B.　Jeremiah 3:11-18（エレ 3：11〜18）

11 【主】はまた、私に仰せられた。「背信の女イスラエルは、裏切る女ユダよりも正しかった。
12 行って、次のことばを北のほうに呼ばわって言え。背信の女イスラエル。帰れ。――【主】の御告げ――わたしはあなたがたをしからない。わたしは恵み深いから。――【主】の御告げ――わたしは、いつまでも怒ってはいない。
13 ただ、あなたは自分の咎を知れ。あなたは自分の神、【主】にそむいて、すべての茂った木の下で、他国の男とかってなまねをし、わたしの声を聞き入れなかった。――【主】の御告げ――
14 背信の子らよ。帰れ。――【主】の御告げ――わたしが、あなたがたの夫になるからだ。わたしはあなたがたを、町からひとり、氏族からふたり選び取り、シオンに連れて行こう。
15 また、あなたがたに、わたしの心にかなった牧者たちを与える。彼らは知識と分別をもってあなたがたを育てよう。
16 その日、あなたがたが国中にふえて多くなるとき、――【主】の御告げ――彼らはもう、【主】の契約の箱について何も言わず、心にも留めず、思い出しもせず、調べもせず、再び作ろうともしない。
17 そのとき、エルサレムは『【主】の御座』と呼ばれ、万国の民はこの御座、【主】の名のあるエルサレムに集められ、二度と彼らは悪いかたくなな心のままに歩むことはない。
18 その日、ユダの家はイスラエルの家といっしょになり、彼らはともどもに、北の国から、わたしが彼らの先祖に継がせた国に帰って来る。」

＊14～18 節　メシア的王国における祝福
＊13 節　その前に、特定の「咎」の告白が必要である。

C. Zechariah 12:10 （ゼカ 12：10）

10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。

＊12～14 章は、ひとまとまりの預言的啓示である。
＊13 章　イスラエルの国家的清め
＊14 章　メシアの再臨とメシア的王国の確立

＊ゼカ 12：10 が、そのための前提である。
＊自分たちが突き刺した者を仰ぎ見る。

D. Hosea 5:15（ホセ 5：15）

15 彼らが自分の罪を認め、わたしの顔を慕い求めるまで、わたしはわたしの所に戻っていよう。彼らは苦しみながら、わたしを捜し求めよう。

＊5 章　神が語っておられる。

＊神は、天を去られた。ナザレのイエスの受肉
＊メシアは、オリーブ山から天に昇られた。
＊ユダヤ人たちが自分の罪を認め、告白するまで戻って来ない。
＊ユダヤ人たちの罪とは、イエスのメシア性を拒否したことである。

E. Matthew 23:37-39（マタ 23：37〜39）

37 ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。
38 見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。
39 あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」

＊マタ 23 章　イエスは、律法学者やパリサイ人たちを糾弾している。
＊37 節　当初の願いは、彼らを集めることであった。
　・しかし、不信仰のゆえに彼らは散らされる。
＊38 節　神殿は荒れ果てたままで残される。
＊39 節　「祝福あれ。主の御名によって来られる方に」と言うなら戻ってくる。

＊サタンがユダヤ人を迫害するのは、この理由からである。
＊すべての反ユダヤ主義は、メシアの再臨を無効にするための戦略である。

＊再臨の前提条件
①イスラエルは、国家的罪を告白しなければならない。
②イスラエルは、戻って来てくださいとメシアに懇願しなければならない。
・「ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く」

MEMO

反キリストの興隆と滅亡
THE RISE AND FALL OF THE ANTICHRIST

INTRODUCTION　（はじめに）

＊反キリストの活動を理解するためには、偽の三位一体を理解する必要がある。
＊黙 13 章　大患難時代において聖ならざる三位一体が設立される。
・サタンは偽の父を演じる。
・反キリストは偽の子を演じる。
・偽預言者は偽の聖霊を演じる。
＊この課を 9 つの区分に分けて学ぶ。

Ⅰ．THE NAMES OF THE ANTICHRIST（反キリストの呼び名）

＊反キリストは、人間の領域における悪の権化である。
＊サタンは、天使の領域における悪の権化である。

＊11 の呼び名
①サタンの子孫（種）　創 3：15
②小さな角　ダニ 7：8
③顔は猛悪な王（口語訳）　ダニ 8：23
④来るべき君主　ダニ 9：26
⑤荒らす者　ダニ 9：27
⑥思いのままにふるまう王　ダニ 11：36
⑦罪の人（The Man of Sin）（日本語訳は不法の人）　2 テサ 2：3
⑧滅びの子　2 テサ 2：3
⑨不法の人　2 テサ 2：8
⑩反キリスト　1 ヨハ 2：22
⑪獣　黙 11：7

＊反キリストという呼び名が、その存在目的を最もよく表している。

＊反キリストのゴールは、キリストに敵対することである。
＊キリストに多くの御名があるように、反キリストにも多くの呼称がある。

II．THE ORIGIN OF THE ANTICHRIST（反キリストの起源）

＊神の御子には、自然な起源と超自然的起源がある。
＊反キリストにも、自然な起源と超自然的起源がある。

A. His Natural Origin: Daniel 9:26-27（反キリストの自然な起源：ダニ 9：26〜27）

26 その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。
27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

＊反キリストは異邦人である。
＊聖書的型　アンティオコス・エピファネス（異邦人）
＊聖書的比喩　「海」という言葉は、異邦人国家の象徴。
　・黙 13：1〜10 の獣は海から出て来る。
＊異邦人の時の内容　再臨の時まで、異邦人の時は終わらない。
　・反キリストは、異邦人の最後の支配者である。
　・反キリストがユダヤ人だというのは、理屈に合わない。

＊27 節　反キリストの国籍　イスラエルと 7 年の契約を結ぶ者は誰か。
＊それは、26 節の「やがて来るべき君主」である。
＊26 節　この人物は、「町と聖所を破壊する民」と同じ国籍である。
　・ローマ人が、紀元 70 年にこの預言を成就した。
＊つまり、反キリストはローマ人としての起源を持つ。

B. His Supernatural Origin: Genesis 3:15（反キリストの超自然的起源：創 3：15）

15 わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとにかみつく。」

＊この聖句は、メシア到来の最初の預言である。
＊反キリストについての最初の預言でもある。
＊両者の間に敵意が置かれる。
　①サタンと女の間の敵意

・創 6 章で、悪霊どもが人間の女と結婚する。

②女の子孫（種）とサタンの子孫（種）の間の敵意

・女の子孫とは、メシアであるイェシュア（イエス）。

・イエスは、処女マリヤから誕生した「神人」である。

・「女の子孫」という言い方は、聖書の中の系図の原則に反する。

・系図は、父方の血統をたどるものである。

・イザ 7：14　処女降誕の預言

・「女の子孫」という言い方は、メシアの超自然的起源を意味している。

・「サタンの子孫」も同様に超自然的起源を意味している。

・「サタンの子孫」とは、反キリストのことである。

・サタンによってローマ人の婦人から誕生するのが、反キリストである。

Ⅲ．THE REVELATION OF THE ANTICHRIST（反キリストの啓示）

①大患難時代の前、信者に対して

②大患難時代の中間、イスラエルに対して

＊2 テサ 2：1～3

1 さて兄弟たちよ。私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたにお願いすることがあります。

2 霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは私たちから出たかのような手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。

3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。

＊1～2 節　パウロが去った後に来る偽教師たち。大患難時代が来ていると教える。

＊テサロニケの信者たちは、「主の日」が来たと聞かされて混乱するようになる。

＊3 節　大患難時代の前に起こる 2 つの出来事

①教会の背教

②「不法の人」（the man of sin）、「滅びの子」の出現

・教会の携挙がすでに起こっているかどうかは、分からない。

・もし携挙後であるなら、この啓示はそれ以降の信者に対するものである。

・いかにして反キリストが現れたことを知るのか。

・ダニ 9：27　反キリストがイスラエルと契約を結ぶ。
・反キリストの名は「666」である。

＊大患難時代の中間の啓示は、2 テサの「荒らす憎むべき者」の箇所に出て来る。
・イスラエルに対するものである。

Ⅳ．THE ANTICHRIST AND THE START OF THE TRIBULATION（反キリストと大患難時代の始まり）

＊ダニ 9：27

27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

＊70 週の預言の一部である。24～27 節がひとくくりになっている。
＊24 節　70 週（490 年）がイスラエルのために定められている。
・最初の 69 週（483 年）の間に、エルサレムは再建される。
＊25 節　この時期に、イスラエルは患難を体験する。
＊69 週と最後の 1 週の間に、ギャップが生じる。
＊その間、3 つのことが起こる。
①メシアは殺される。紀元 30 年に起こった。
②エルサレムと神殿が破壊される。紀元 70 年に起こった。
③荒廃が長期間続く。1948 年のイスラエル建国まで続いた。
＊最後の 1 週間（7 年間）は、大患難時代である。

＊27 節　反キリストがイスラエルと契約を結ぶ。これが大患難時代の始まり。

＊黙 6：1～2

1 また、私は見た。小羊が七つの封印の一つを解いたとき、四つの生き物の一つが、雷のような声で「来なさい」と言うのを私は聞いた。
2 私は見た。見よ。白い馬であった。それに乗っている者は弓を持っていた。彼は冠を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。

＊「白い馬」に乗っているのが、反キリストである。
＊7 つの封印の最初のものが反キリストである。
＊反キリストは、世界征服のためにイスラエルとの契約を利用する。
・中間期に、反キリストは 3 人の王たちを殺す。

・7 人の王たちは、反キリストの権威に服従する。

V．THE RISE OF THE ANTICHRIST（反キリストの興隆）

＊偽の御子は、真の御子が拒否した申し出を受け入れる。

・マタ 4：8～10、ルカ 4：5～8

・イエスは、申命記を引用してサタンに勝利した。

＊反キリストがこの申し出を受け入れ時から、彼の政治的・宗教的興隆が始まる。

・ダニ 11：38～39、ロマ 13：2

＊ダニ 8：23～25

23 彼らの治世の終わりに、彼らのそむきが窮まるとき、横柄で狡猾なひとりの王が立つ。
24 彼の力は強くなるが、彼自身の力によるのではない。彼は、あきれ果てるような破壊を行い、事をなして成功し、有力者たちと聖徒の民を滅ぼす。
25 彼は悪巧みによって欺きをその手で成功させ、心は高ぶり、不意に多くの人を滅ぼし、君の君に向かって立ち上がる。しかし、人手によらずに、彼は砕かれる。

＊反キリストは、サタンの領域にいつでも近づくことができる。

＊23 節　「その顔は猛悪で、彼はなぞを解き、」（口語訳）

・彼は、ダニ 5：12 のなぞを解く力を持っている。

・ダニエルの情報源は神である。

・反キリストの情報源はサタンである。

＊24 節　「彼の力は強くなるが、彼自身の力によるのではない」

・彼は、超自然的な力をもってイスラエルを滅ぼそうとする。

＊25 節　「彼は悪巧みによって欺きをその手で成功させ、心は高ぶり、」

・彼は、自らが神であると宣言する（2 テサ 2：3～4、黙 13：3～9）。

・彼は、「君の君に向かって立ち上がる」。

＊ダニ 11：36～39

36 この王は、思いのままにふるまい、すべての神よりも自分を高め、大いなるものとし、神の神に向かってあきれ果てるようなことを語り、憤りが終わるまで栄える。定められていることが、なされるからである。
37 彼は、先祖の神々を心にかけず、女たちの慕うものも、どんな神々も心にかけない。すべてにまさって自分を大きいものとするからだ。
38 その代わりに、彼はとりでの神をあがめ、金、銀、宝石、宝物で、彼の先祖たちの知らなかった神をあがめる。

39 彼は外国の神の助けによって、城壁のあるとりでを取り、彼が認める者には、栄誉を増し加え、多くのものを治めさせ、代価として国土を分け与える。

＊36 節 a 「この王は、思いのままにふるまい、」

＊36 節 b 「すべての神よりも自分を高め、大いなるものとし、神の神に向かってあきれ果てるようなことを語り、」

・ダニ 7：25

＊37 節 「彼は、…女たちの慕うものも、どんな神々も心にかけない」

・「He will not desire the love of women.」

・サタンと女の間の敵意が、サタンの子孫にも継承されている。

＊38〜39 節 彼は、サタンの完全な支配下にある。

・「彼はとりでの神をあがめ、…彼の先祖たちの知らなかった神をあがめる」

・彼は、外国の神の助けによって勝利者となり、彼を認める者には、栄誉と国土を与える。

A. Political Control（政治的支配）

＊反キリストの政治的支配は、彼の死によって中断される。

＊彼の復活後、大患難時代の第 2 の世界戦争が起こり、10 人の王の中の 3 人が殺される。

＊ダニ 7：23〜24

23 彼はこう言った。『第四の獣は地に起こる第四の国。これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食い尽くし、これを踏みつけ、かみ砕く。

24 十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らのあとに、もうひとりの王が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。

＊23 節 第 4 の異邦人の帝国が世界を征服し、統一政府を樹立する。

＊24 節 a 次に、この帝国は 10 の帝国に分裂する。

＊24 節 b 反キリストが興隆し、10 人の王の中の 3 人を殺す（中間期）。

＊その段階で、残りの王たちは反キリストの権威に服する。

＊黙 17：12〜13

12 あなたが見た十本の角は、十人の王たちで、彼らは、まだ国を受けてはいませんが、獣とともに、一時だけ王の権威を受けます。

13 この者どもは心を一つにしており、自分たちの力と権威とをその獣に与えます。

＊黙 17：17

17 それは、神が、みことばの成就するときまで、神のみこころを行う思いを彼らの心に起こさせ、彼らが心を一つにして、その支配権を獣に与えるようにされたからです。

＊反キリストは、世界の支配者となる。ヨルダンだけは例外。

＊これが、大患難時代における第 2 の政治体制である。

B.　Religious Control（宗教的支配）

①第 1 段階：偽の宗教制度の破壊

・黙 17：16

16　あなたが見た十本の角と、あの獣とは、その淫婦を憎み、彼女を荒廃させ、裸にし、その肉を食い、彼女を火で焼き尽くすようになります。

・大患難時代の前半、統一化された宗教組織（宗教的バビロン）が支配する。

・この組織は、政治権力によって支持される。黙 17：1～5

・政治的支配者たちは、この組織への愛は持っていない。

・反キリストは政治権力を握ると、自らの宗教制度を確立するために、偽の宗教制度を破壊し始める。

②第 2 段階：2 人の証人を攻撃する。

・黙 11：7

7　そして彼らがあかしを終えると、底知れぬ所から上って来る獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺す。

・2 人の証人の活動は、大患難時代の前半に行われる。黙 11：3～13

・3 節　奉仕のタイミング　「千二百六十日の間預言する」

・4 節　「全地の主の御前にある二本のオリーブの木、また二つの燭台」（大患難時代に神が起こされる 2 人のユダヤ人預言者）

・5～6 節　彼らの奉仕の内容と権威。エルサレムが奉仕の場所。

・7 節　反キリストは、彼らを殺す。

・「底知れぬ所から上って来る獣」　反キリストの復活後の出来事

・神は、反キリストが 2 人の証人を殺すことを許された。

③第 3 段階：聖徒たちに対する戦い

・ダニ 7：25

25　彼は、いと高き方に逆らうことばを吐き、いと高き方の聖徒たちを滅ぼし尽くそうとする。彼は時と法則を変えようとし、聖徒たちは、ひと時とふた時と半時の間、彼の手にゆだねられる。

・神を礼拝する者たちを抹殺し、神の記憶を消し去ろうとする。

VI.　THE DEATH AND RESURRECTION OF THE ANTICHRIST（反キリストの死と復活）

＊偽の御子として、反キリストは死と復活を通過する。大患難時代の中間期。

＊ダニ 11：40〜45

40 終わりの時に、南の王が彼と戦いを交える。北の王は戦車、騎兵、および大船団を率いて、彼を襲撃し、国々に侵入し、押し流して越えて行く。
41 彼は麗しい国に攻め入り、多くの国々が倒れる。しかし、エドムとモアブ、またアモン人のおもだった人々は、彼の手から逃げる。
42 彼は国々に手を伸ばし、エジプトの国ものがれることはない。
43 彼は金銀の秘蔵物と、エジプトのすべての宝物を手に入れ、ルブ人とクシュ人が彼につき従う。
44 しかし、東と北からの知らせが彼を脅かす。彼は、多くのものを絶滅しようとして、激しく怒って出て行く。
45 彼は、海と聖なる麗しい山との間に、本営の天幕を張る。しかし、ついに彼の終わりが来て、彼を助ける者はひとりもない。

＊10 人の王に対する宣戦布告によって、大患難時代の後半が始まる。
＊40 節　2 人の王が敵対して立つ。
・南の王（エジプト）と北の王（シリア）
＊41 節　反キリストはイスラエルを征服する。ヨルダンは免れる。
＊42〜43 節　彼は、エジプト、リビヤ、エチオピアを征服する。
＊44 節　東の王（メソポタミア）が敵対する。
＊45 節 b　この戦いで反キリストは殺される。

＊黙 13：1〜8

1 また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。これには十本の角と七つの頭とがあった。その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。
2 私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口は獅子の口のようであった。竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。
3 その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、
4 そして、竜を拝んだ。獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拝んで、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう」と言った。
5 この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。
6 そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。
7 彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。
8 地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされ

ていない者はみな、彼を拝むようになる。

＊1〜2 節　海からの一匹の獣は、ダニ 7 章の第 4 の獣と同じ。

・偽の父であるサタンは、偽の御子である反キリストに権威を与える。

＊3 節 a　第 7 番目の頭（反キリスト）について

・「打ち殺されたかと思われたが、」とは、死んだ者の復活を指す。

・黙 5：6 の「ほふられたと見える小羊」は、メシアの復活を指す。

・ダニ 11：40〜45　10 人の王たちとの戦いで、反キリストは死ぬ。

＊3 節 b　「その致命的な傷も直ってしまった」

・サタンが反キリストを復活させるということ。

＊4 節　反キリストは、全世界を欺く。その結果、全地が彼を礼拝するようになる。

＊5〜6 節　「四十二か月間活動する権威を与えられた」。後半の 3 年半。

＊7 節　聖徒たちに戦いをいどむ。

＊8 節　不信者は、彼をおがむようになる。

・これが、「荒らす憎むべき者」（Abomination of Desolation）につながる。

Ⅶ. THE ABOMINATION OF DESOLATION（荒らす憎むべきもの）

＊「荒らす憎むべきもの」とは、反キリストによる宗教的支配のピークである。

・マタ 24：15　「荒らす憎むべき者」

・マコ 13：14　「荒らす憎むべきもの」

A. The Act（行為）

＊ダニ 9：27

27　彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

＊大患難時代の開始だけでなく、どれくらいの期間続くかも教えている。

＊大患難時代の中間期に、反キリストは契約を破棄する。

＊神殿でのいけにえとささげ物をやめさせる。

＊「荒らす憎むべきもの」と呼ばれる行為を行う。

＊「abomination」（憎むべきもの）は、像や偶像を指すことが多い。

＊ダニ 12：11

11 常供のささげ物が取り除かれ、荒らす忌むべきものが据えられる時から千二百九十日がある。

＊「荒らす憎むべきもの」の始まりは、ささげ物の廃棄である。
＊その期間は、1290 日である。大患難時代の終わりからさらに 30 日ある。
・その理由は述べられていない。

＊マタ 24：15〜16

15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、（読者はよく読み取るように。）
16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。

＊大患難時代の中間期に生きているユダヤ人たちへの警告が語られている。
＊「荒らす憎むべき者」の登場は、ユダヤ人たちへの警告である。
・すぐにイスラエルの地を出なければならない。
＊これは、第 2 の反キリストの啓示である。

＊黙 11：1〜2

1 それから、私に杖のような測りざおが与えられた。すると、こう言う者があった。「立って、神の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。
2 聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。測ってはいけない。彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みにじる。

＊神殿の機能は停止する。
＊異邦人は 3 年半の間、町と神殿を支配する。
＊「荒らす憎むべきもの」の内容は、啓示されていない。

B. The Two Stages（2 つの段階）

1. The First Stage: II Thessalonians 2:3-4（第 1 段階：2 テサ 2：3〜4）

3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。
4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

＊反キリストは、神殿を支配するようになる。ダニ 9：27、黙 11：1〜2
・至聖所に王座を設け、自らを真の神と宣言する。
・大患難時代における第 2 の宗教制度を確立する。反キリストの礼拝。

＊欺きを実行するために、奇跡的しるしが行われる。
＊2 テサ 2：8〜12

8 その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。
9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、
10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。
11 それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。
12 それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。

＊8節　反キリストは不法の人として啓示される。
・イスラエルは、自分たちが契約を結んだ相手が誰であるか理解する。
＊9節　反キリストは、サタンによって力を受け、奇跡を行う。
＊10節　福音を拒否した人は、反キリストに欺かれ、彼を礼拝する。
＊11〜12節　大患難時代の前半に144,000人のユダヤ人伝道者の奉仕がある。
・マタ24：14、黙7章
＊144,000人の奉仕に応答しなかった者たちは、大患難時代の後半に反キリストを礼拝するようになる。
＊世界に広がる反キリストの礼拝は、彼の死と復活の結果起こることである。
・黙13：1〜8

2. The Second Stage: Revelation 13:11-15（第2段階：黙13：11〜15）

11 また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。それには小羊のような二本の角があり、竜のようにものを言った。
12 この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。
13 また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行った。
14 また、あの獣の前で行うことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。
15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。

＊偽預言者の出現によって、偽の三位一体が完成する。
＊11節　偽預言者もサタンによって力を受ける。
＊12節a　偽預言者は、反キリストと同じ権威を行使する。
＊12節b　偽預言者は、反キリストを礼拝するように人々に呼びかける。
＊13節　聖霊降臨に奇跡がともなったように、偽預言者にも奇跡がともなう。
＊14節a　これらの奇跡によって、さらに欺きが進む。

＊14b～15 節　「荒らす憎むべきもの」の第 2 段階
・至聖所に反キリストの像が置かれる。像に息が吹きこまれる。
・マタ 24：15　「『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、」
＊ダニ 12：11　この像は、1,290 日そこに置かれる。大患難時代を 30 日超える。

Ⅷ. THE MARK OF THE BEAST（獣の刻印）

＊聖霊の証印に対して、偽の証印（刻印）がある。
＊黙 13：16～18

16 また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。
17 また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。
18 ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。

＊16 節　反キリストを礼拝する者の右手か額に刻印が押された。
＊17 節 a　この数字を持っている物だけが、売ったり買ったりできる。
・これは、クレジットカードやバンキングシステムのことではない。
＊17b～18 節　刻印の意味
①獣の名
②その名の数字（名前を数字化したもの）
③獣の数字
④人間を指す数字
⑤666 という数字

＊獣の数字は、反キリストの数字である。
＊反キリストは、第 4 の異邦人帝国の最後の形態を支配する君主である。
＊ヘブル語のアルファベット 22 文字には、数価が割り当てられている。
＊反キリストのヘブル語名を数字に置き換えると、666 である。
＊18 節　事前にその名を割り出すことは不可能であるが、顕著な人物が登場したときには、判断可能となる。

＊信者は、獣の刻印がないので、生活は厳しいものとなる。
＊黙 14：9～12（警告と慰め）

9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。「もし、だれ

でも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、
10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。
また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。
11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、また
だれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。
12 神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。」

＊天使の警告　獣の刻印を受けるなら、大患難時代において救いの可能性はない。
＊9〜11 節　もし刻印を受けるなら、神の怒りを受ける（黙 15〜16 章の鉢の裁き）。
・彼らの最後は、燃える火の池である。
＊12 節　聖徒たちへの慰め。患難は 3 年半しか続かない。

＊黙 16：1〜2

1 また、私は、大きな声が聖所から出て、七人の御使いに言うのを聞いた。「行って、神
の激しい怒りの七つの鉢を、地に向けてぶちまけよ。」
2 そこで、第一の御使いが出て行き、鉢を地に向けてぶちまけた。すると、獣の刻印を
受けている人々と、獣の像を拝む人々に、ひどい悪性のはれものができた。

＊この時期に、鉢の裁きが下る（特に、獣の刻印を受けた人たちの上に）。
・黙 14：9〜11 の成就である。
＊獣の刻印を受けている人々に悪性のはれものができる。

IX．THE FALL OF THE ANTICHRIST（反キリストの滅亡）

＊黙 16：12〜16

12 第六の御使いが鉢を大ユーフラテス川にぶちまけた。すると、水は、日の出るほうか
ら来る王たちに道を備えるために、かれてしまった。
13 また、私は竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるのような汚れた霊ど
もが三つ出て来るのを見た。
14 彼らはしるしを行う悪霊どもの霊である。彼らは全世界の王たちのところに出て行く。
万物の支配者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。
15 ――見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物を着け、裸で歩く恥
を人に見られないようにする者は幸いである――
16 こうして彼らは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる所に王たちを集めた。

＊12 節　第 6 の鉢の裁き　ユーフラテス川が枯れる。
・反キリストは、ハルマゲドンの戦いのために軍勢を集める。
＊「日の出るほうから来る王たち」

・中国軍ではない。
・黙 9 章の 2 億の騎兵でもない。
・2 億の騎兵はラッパの裁き、東の王たちは鉢の裁きの時のことである。
・さらに、2 億の騎兵は悪霊どもである。
・聖書で「東」と言えば、メソポタミア（アッシリヤ、バビロン）のこと。
・東から来る王たちとは、メソポタミアの王たちである。

＊13〜14 節　バビロンの首都から反キリストの軍勢を召集する命令が出る。
・偽の三位一体の業である。
・竜はサタン（偽の父）。
・獣は反キリスト（偽の御子）。
・そして、偽預言者（偽の聖霊）。
・悪霊がその召集をより有効なものにするために働く。
・王たちとは、中間期以降、反キリストの支配下にある 7 人の王たちである。
＊「神の大いなる日の戦い」である。

＊15 節　挿入句である。
＊16 節　反キリストの軍勢が集結するのは、ハルマゲドンという場所である。
・ここは、イズレエルの谷である。
・ここは、戦場ではなく、軍勢が集まる場所である。

＊この戦いの目的は、ユダヤ人の抹殺である。
＊これがきっかけで、反キリストの滅亡が始まる。

＊ハルマゲドンの戦いの最終局面で、メシアの再臨が起こる。
・反キリストは殺される。
＊2 テサ 2：8
8　その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。
・サタンから権威を受けてしるしを行ってきた反キリストが、殺される。
・これは、反キリストの 2 度目の死である。

＊反キリストの魂がどうなるかは、イザヤが預言している。
＊イザ 14：9〜11
9　下界のよみは、あなたの来るのを迎えようとざわめき、死者の霊たち、地のすべての指導者たちを揺り起こし、国々のすべての王を、その王座から立ち上がらせる。

10 彼らはみな、あなたに告げて言う。『あなたもまた、私たちのように弱くされ、私たちに似た者になってしまった。』
11 あなたの誇り、あなたの琴の音はよみに落とされ、あなたの下には、うじが敷かれ、虫けらが、あなたのおおいとなる。

＊9節　死んでシオールにいる諸国の王たちが、反キリストがそこに来たので驚く。
＊11節　反キリストの高ぶりは、シオールに落とされる。

＊反キリストの肉体がどうなるかも、イザヤが預言している。
＊イザ14：16〜20

16 あなたを見る者は、あなたを見つめ、あなたを見きわめる。『この者が、地を震わせ、王国を震え上がらせ、
17 世界を荒野のようにし、町々を絶滅し、捕虜たちを家に帰さなかった者なのか。』
18 すべての国の王たちはみな、おのおの自分の墓で、尊ばれて眠っている。
19 しかし、あなたは、忌みきらわれる若枝のように墓の外に投げ出された。剣で刺し殺されて墓穴に下る者でおおわれ、踏みつけられるしかばねのようだ。
20 あなたは墓の中で彼らとともになることはない。あなたは自分の国を滅ぼし、自分の民を虐殺したからだ。悪を行う者どもの子孫については永久に語られない。

＊16〜17節　反キリストの死体は、驚きをもって見つめられる。
＊18節　すべての国の王たちは墓に葬られるが、反キリストはそうではない。
＊19節　反キリストの死体は、自らの軍勢に踏みつけられる。
＊20節　反キリストの死体が葬られることはない。イザヤは理由を明かさない。

＊神が若干のユーモアを発揮される。
・第一の復活は、信者の復活である（黙20：4〜6）。
・メシアは、第一の復活の初穂である（1コリ15：20〜23）。
・第二の復活は、不信者の復活である（黙20：11〜15）。
・反キリストは、第二の復活の初穂である（黙19：19〜21）。

＊黙19：19〜21

19 また私は、獣と地上の王たちとその軍勢が集まり、馬に乗った方とその軍勢と戦いを交えるのを見た。
20 すると、獣は捕らえられた。また、獣の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた人々と獣の像を拝む人々とを惑わしたあのにせ預言者も、彼といっしょに捕らえられた。そして、このふたりは、硫黄の燃えている火の池に、生きたままで投げ込まれた。
21 残りの者たちも、馬に乗った方の口から出る剣によって殺され、すべての鳥が、彼ら

の肉を飽きるほどに食べた。

＊19 節　ハルマゲドンの戦い。反キリストは死ぬ（2 テサ 2：8）。

＊20 節　反キリストと偽預言者は、生きたまま火の池に投げ込まれる。

・反キリストは、メシアに殺されて後に、復活する。

＊21 節　ハルマゲドンの戦いに参戦した者たちの死体が鳥に食われる。

＊黙 20：10　反キリストと偽預言者は、彼らだけで火の池で 1,000 年間過ごす。

ハルマゲドンの戦い
THE CAMPAIGN OF ARMAGEDDON

INTRODUCTION AND BACKGROUND INFORMATION（イントロダクションと背景情報）

＊大患難時代のクライマックスは、ハルマゲドンの戦いと再臨。
＊出来事を時間順に並べるのは、困難な作業である。
＊ハルマゲドンの戦いの流れを、まとめてみたい。

＊携挙には、前提条件がない。
＊再臨の条件は、イスラエルの救いである。
・レビ 26：40〜42、エレ 3：12〜18、ホセ 5：15〜6：3、ゼカ 12：10
・マタ 23：37〜39
＊反ユダヤ主義は、再臨をとどめようとするサタンの策略である。

＊大患難時代の後半、サタンは地上に落とされる（黙 12：7〜12）。
＊サタンは、自らの時が短いことを知る（黙 12：12）。
＊そこで、ユダヤ人を迫害する（黙 12：17）。
＊迫害は、大患難時代の中間期からハルマゲドンの戦いの始まりまで続く。
＊この迫害で、ユダヤ人の 3 分の 2 が死ぬ。
＊ハルマゲドンの戦いは、残りの 3 分の 1 を抹殺するための戦いである。

＊大患難時代の 2 つの統治形態
①前半の統治形態　10 人の王が 10 の国を統治する。
・これは、EU ではない。世界全体が視野にある。
・中間期に反キリストが 3 人の王を殺し、7 人の王を支配下に置く。
②後半の統治形態　反キリストが世界統一政府を支配する。

＊大患難時代の 2 つの宗教システム
①前半のシステム　宗教的バビロン（黙 17 章）
・世界統一宗教である。
・これに従わない者は、迫害に会う。

・中間期に反キリストがこれを破壊し、自ら至聖所に座す。

②後半のシステム　反キリストの礼拝

・反キリストを神として受け入れる者は、666 の刻印を受ける。

・この状態が、中間期からハルマゲドンの戦いの始まりまで続く。

・反キリストが、政治的、宗教的支配者として君臨する。

＊ハルマゲドンの戦いの 8 段階について学ぶ。

Ⅰ．THE FIRST STAGE: THE ASSEMBLING OF THE ALLIES OF THE ANTICHRIST（第 1 段階：反キリストの同盟軍の召集）

＊黙 16：12〜16

12 第六の御使いが鉢を大ユーフラテス川にぶちまけた。すると、水は、日の出るほうから来る王たちに道を備えるために、かれてしまった。

13 また、私は竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるのような汚れた霊どもが三つ出て来るのを見た。

14 彼らはしるしを行う悪霊どもの霊である。彼らは全世界の王たちのところに出て行く。万物の支配者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。

15 ――見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物を着け、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである――

16 こうして彼らは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる所に王たちを集めた。

＊12 節　第 6 の鉢の裁き　ユーフラテス川が枯れる。

・反キリストは、ハルマゲドンの戦いのために軍勢を集めやすくなる。

＊13〜14 節　バビロンの首都から反キリストの軍勢を召集する命令が出る。

・偽の三位一体の業である。

・竜はサタン（偽の父）。

・獣は反キリスト（偽の御子）。

・そして、偽預言者（偽の聖霊）。

・悪霊がその召集をより有効なものにするために働く。

＊16 節　反キリストの軍勢が集結するのは、ハルマゲドンという場所である。

・ここは、イズレエルの谷である。

・ここは、戦場ではなく、軍勢が集まる場所である。

・ハルマゲドンとは、谷（平原）の西端にある山のことである。

・ハルマゲドンでの戦闘は一切ない。
・第二次世界大戦では、連合国軍は英国に集結した。
・最後の戦いは、フランスのノルマンディーで起こった（D-Day）。
・この戦いは、「神の大いなる日の戦い」である（14 節）。

＊黙 16 章は、人間的視点から、諸国の軍勢の集結を描いている。
＊神の視点から描写した箇所が 2 つある。
＊ヨエ 3：9〜11（神の視点）

9 諸国の民の間で、こう叫べ。聖戦をふれよ。勇士たちを奮い立たせよ。すべての戦士たちを集めて上らせよ。
10 あなたがたの鋤を剣に、あなたがたのかまを槍に、打ち直せ。弱い者に「私は勇士だ」と言わせよ。
11 回りのすべての国々よ。急いで来て、そこに集まれ。――【主】よ。あなたの勇士たちを下してください――

＊詩 2

1 なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。
2 地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、【主】と、主に油をそそがれた者とに逆らう。
3 「さあ、彼らのかせを打ち砕き、彼らの綱を、解き捨てよう。」
4 天の御座に着いている方は笑い、主はその者どもをあざけられる。
5 ここに主は、怒りをもって彼らに告げ、燃える怒りで彼らを恐れおののかせる。
6 「しかし、わたしは、わたしの王を立てた。わたしの聖なる山、シオンに。」
7 「わたしは【主】の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。
8 わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、地をその果て果てまで、あなたの所有として与える。
9 あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、焼き物の器のように粉々にする。』」
10 それゆえ、今、王たちよ、悟れ。地のさばきづかさたちよ、慎め。
11 恐れつつ【主】に仕えよ。おののきつつ喜べ。
12 御子に口づけせよ。主が怒り、おまえたちが道で滅びないために。怒りは、いまにも燃えようとしている。幸いなことよ。すべて主に身を避ける人は。

＊ヨエル書は神のあざけりを、詩 2 篇は神の笑いを描いている。
＊神は、諸国を混乱に陥れようとしておられる。
＊神は、ご自身の計画によって、連合軍の集結を許しておられる。

II．THE SECOND STAGE: THE DESTRUCTION OF BABYLON（第 2 段階：バビロンの滅亡）

＊政治的バビロン　→　字義通りに解釈する。ローマ・カトリック教会ではない。
＊バビロンの町がやがて再建され、反キリストが統治する世界の首都となる。
＊そして、ハルマゲドンの戦いの第 2 段階で滅亡する。

＊第 2 段階に関連した聖書箇所は、イザ 13〜14 章、エレ 50〜51 章、黙 18 章。
＊ここでは、イザヤ書とエレミヤ書の関連箇所を取り上げる。

＊イザ 13：1〜5

1 アモツの子イザヤの見たバビロンに対する宣告。
2 はげ山の上に旗を掲げ、彼らに向かって声をあげ、手を振って、彼らを貴族の門に、入らせよ。
3 わたしは怒りを晴らすために、わたしに聖別された者たちに命じ、またわたしの勇士、わたしの勝利を誇る者たちを呼び集めた。
4 聞け。おびただしい民にも似た山々のとどろきを。聞け。寄り合った王国、国々のどよめきを。万軍の【主】が、軍隊を召集しておられるのだ。
5 彼らは遠い国、天の果てからやって来る。彼らは全世界を滅ぼすための、【主】とその憤りの器だ。

＊多くの軍勢が招集される。
＊第 1 段階では、親バビロン、親・反キリストの軍勢であった。
＊第 2 段階では、反バビロン、反・反キリストの軍勢である。
＊3 節　彼らは、異邦人の信者たちである。
＊イザ 13：6〜14：23 には、バビロン滅亡の手段と方法が啓示されている。
＊6 節と 9 節　これらの出来事は、「【主】の日」に起こる。大患難時代の期間。

＊エレ 50：9〜10

9 見よ。わたしが、大国の集団を奮い立たせて、北の地からバビロンに攻め上らせる。彼らはこれに向かって陣ぞなえをし、これを攻め取る。彼らの矢は、練達の勇士の矢のようで、むなしくは帰らない。
10 カルデヤは略奪され、これを略奪する者はみな満ち足りる。――【主】の御告げ――

＊エレ 50：41〜42

41 見よ。一つの民が北から来る。大きな国と多くの王が地の果て果てから奮い立つ。
42 彼らは弓と投げ槍を堅く握り、残忍で、あわれみがない。その声は海のようにとどろく。バビロンの娘よ。彼らは馬に乗り、ひとりのように陣ぞなえをして、あなたを攻

める。

＊エレミヤは、100 年前にイザヤが見たのと同じものを見ている。
＊世界の首都バビロンを攻める軍勢

＊黙 18 章　バビロンは突然、短時間で、完全に滅びる。

＊バビロン滅亡の際、バビロンの王は町にいない。
＊エレ 50：43

43 バビロンの王は、彼らのうわさを聞いて気力を失い、産婦のような苦しみと苦痛に捕らえられる。

＊エレ 51：31～32

31 飛脚はほかの飛脚に走り次ぎ、使者もほかの使者に取り次いで、バビロンの王に告げて言う。「都はくまなく取られ、
32 渡し場も取られ、葦の舟も火で焼かれ、戦士たちはおじ惑っている。」

＊飛脚や使者が必要ということは、王がバビロンにいないということ。
＊バビロンの王（反キリスト）は、イズレエルの谷にいたのであろう。

Ⅲ．THE THIRD STAGE: THE FALL OF JERUSALEM（第 3 段階：エルサレムの陥落）

＊ゼカ 12：2～3

2 見よ。わたしはエルサレムを、その回りのすべての国々の民をよろめかす杯とする。ユダについてもそうなる。エルサレムの包囲されるときに。
3 その日、わたしはエルサレムを、すべての国々の民にとって重い石とする。すべてそれをかつぐ者は、ひどく傷を受ける。地のすべての国々は、それに向かって集まって来よう。

＊ゼカ 14：1～2

1 見よ。【主】の日が来る。その日、あなたから分捕った物が、あなたの中で分けられる。
2 わたしは、すべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。町は取られ、家々は略奪され、婦女は犯される。町の半分は捕囚となって出て行く。しかし、残りの民は町から断ち滅ぼされない。

＊反キリストはバビロンに向かわず、南下してエルサレムに向かう。
＊サタンの意図は、ユダヤ人を全滅させること。

＊イズレエルの谷を発った諸国の軍勢は、エルサレムを攻撃する。
＊激しい戦いが展開される（ゼカ 10：4〜9、ミカ 4：19〜5：1）。
＊反キリストの軍勢は相当な被害を受けるが、エルサレムは陥落する。

IV．THE FOURTH STAGE: THE ARMIES OF THE ANTICHRIST AT BOZRAH（第 4 段階：ボツラでの反キリストの軍勢）

＊エルサレム陥落の日、ユダヤ人のほとんどがイスラエルの地から避難している。
＊イスラエル国家は大患難時代の中間期に崩壊し、ユダヤ人たちは離散して行く。
・マタ 24：15〜22、黙 12：6〜17
＊生き延びた 3 分の 1 のユダヤ人たちは、特別な場所に避難している。
・マタ 24：16　山
・黙 12：6、13〜14　荒野
・イザ 33：12〜16　岩地で防御が容易な地

＊ミカ 2：12

12 ヤコブよ。わたしはあなたをことごとく必ず集める。わたしはイスラエルの残りの者を必ず集める。わたしは彼らを、おりの中の羊のように、牧場の中の群れのように一つに集める。こうして人々のざわめきが起ころう。

＊「ボズラの羊のごとく成らしめん」（文語訳）
・逃れの場所は、ヘブル語でボツラである。
・今日、ギリシア名のペトラとして知られている。
・ボツラは、「羊のおり」という意味である（その形状のゆえに）。
・羊に狭い通路を通らせ、頭数を数える。中に入ると広い空間がある。
・ペトラに入るためには、狭い道を約 2 キロ歩く。
・セイル山の山脈の中にあり、エドムの一部である。今日のヨルダン南部。

＊難攻不落の地であると同時に、別の理由もある。
＊ダニ 11：36〜45　大患難時代の中間期に反キリストは多くの国を征服する。
＊41 節

41 彼は麗しい国に攻め入り、多くの国々が倒れる。しかし、エドムとモアブ、またアモン人のおもだった人々は、彼の手から逃げる。

＊征服を免れる 3 つの国がある。
・エドム、モアブ、アモン（すべて今日のヨルダンである）

＊ユダヤ人が迫害されると、別の地が逃れの地となる。
・1492 年　ユダヤ人はスペインから追放された。
・コロンブスがアメリカ大陸を発見し、そこがユダヤ人の逃れの地となった。

＊大患難時代において、エドムの地がその役割を果たすようになる。
＊反キリストの軍勢は、エルサレムからボツラに向かう。
＊エレ 49：13～14

13 わたしは自分にかけて誓ったからだ。――【主】の御告げ――必ずボツラは恐怖、そしりとなり、廃墟、ののしりとなる。そのすべての町々は、永遠の廃墟となる。」
14 私は【主】から知らせを聞いた。「使者が国々の間に送られた。『集まって、エドムに攻め入れ。戦いに立ち上がれ。』

＊反キリストの軍勢は、ボツラに隠れているユダヤ人の残りの者たちを攻撃する。

V．THE FIFTH STAGE: THE NATIONAL REGENERATION OF ISRAEL（第 5 段階：イスラエルの国家的新生）

＊メシア再臨の前提条件
①イスラエルによる国家的罪の告白
②イスラエルの懇願

A. The National Confession of Israel（イスラエルによる国家的罪の告白）

＊レビ 26：39～42　土地の約束が成就する前にある特定の罪の告白が必要。
＊エレ 3：12～18　メシア的王国の祝福を受ける前にある特定の罪の告白が必要。

＊ホセ 5：15

15 彼らが自分の罪を認め、わたしの顔を慕い求めるまで、わたしはわたしの所に戻っていよう。彼らは苦しみながら、わたしを捜し求めよう。

＊御子は受肉の時に、天を離れた。
＊御子は昇天の時に、天に戻られた。
＊イスラエルの国家的罪とは、イエスのメシア性を拒否したことである。
＊この罪が告白されない限り、メシアの再臨はない。

B. The Plea of Israel（イスラエルの懇願）

＊ゼカ 12：10　イスラエルは自分たちが突き刺した者を仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆く。

＊その後、イスラエルの罪の清め（ゼカ 13 章）、再臨（ゼカ 14 章）が実現する。
＊マタ 23：37〜39　メシアが戻って来られるようにという懇願
　・ユダヤ人の指導者たちは、イエスのメシア性を受け入れるように民を導く。

＊ホセ 6：1〜3　ホセ 5 章の続きである。
＊ホセ 5：15　メシアは、イスラエルが罪を告白しない限り戻って来ない。
＊ホセ 6：1〜3

1 「さあ、【主】に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、いやし、私たちを打ったが、また、包んでくださるからだ。
2 主は二日の後、私たちを生き返らせ、三日目に私たちを立ち上がらせる。私たちは、御前に生きるのだ。
3 私たちは、知ろう。【主】を知ることを切に追い求めよう。主は暁の光のように、確かに現れ、大雨のように、私たちのところに来、後の雨のように、地を潤される。」

＊ハルマゲドンの戦いのこの段階で、ユダヤ人の指導者たちは何が問題であるかを発見する。
　それは、イエスのメシア性を拒否したことである。
＊そこで彼らは、この布告を出す。
＊この布告が出されてから、ハルマゲドンの戦いの最後の 3 日間が始まる。

＊最初の 2 日間で、イスラエルは国家的罪を告白する。
＊イザ 53：1〜9　メシア受難の預言であるが、それ以上の内容を含む。
＊イスラエルの罪の告白の言葉が含まれている。

＊3 日目に、イスラエルは救われる。
＊イザ 66　イスラエルは 1 日で救われる。
＊ロマ 11：26　イスラエルはみな救われる。
＊イスラエルは、メシアの再臨を懇願する。
＊イザ 64、詩 79、詩 80

＊詩 80：1〜3

1 イスラエルの牧者よ。聞いてください。ヨセフを羊の群れのように導かれる方よ。光を放ってください。ケルビムの上の御座に着いておられる方よ。
2 エフライムとベニヤミンとマナセの前で、御力を呼びさまし、私たちを救うために来てください。
3 神よ。私たちをもとに返し、御顔を照り輝かせてください。そうすれば、私たちは救われます。

＊イスラエルは、苦難からの救出を願っている。

＊詩 80：17

17　あなたの右の手の人の上に、御手が、ご自分のため強くされた人の子の上に、御手がありますように。

＊彼らは、神の右の手の上におられる方に祈っている。メシアであるイエス。

＊メシアは、彼らの願いに応えて戻って来られる。

VI. THE SIXTH STAGE: THE SECOND COMING OF THE MESSIAH（第 6 段階：メシアの再臨）

＊ユダヤ人たちの懇願に応えて、イェシュアは戻って来られる。

＊場所は、オリーブ山ではなく、ボツラである。

＊詩 18：8〜16、エゼ 39：21〜29、ハバ 3：1〜19

＊マタ 16：27、24：30、使 1：9〜11、ユダ 14〜15、黙 19：1〜16

A. Isaiah 34:1-7（イザ 34：1〜7）

1　国々よ。近づいて聞け。諸国の民よ。耳を傾けよ。地と、それに満ちるもの、世界と、そこから生え出たすべてのものよ。聞け。

2　【主】がすべての国に向かって怒り、すべての軍勢に向かって憤り、彼らを聖絶し、彼らが虐殺されるままにされたからだ。

3　彼らの殺された者は投げやられ、その死体は悪臭を放ち、山々は、その血によって溶ける。

4　天の万象は朽ち果て、天は巻き物のように巻かれる。その万象は、枯れ落ちる。ぶどうの木から葉が枯れ落ちるように。いちじくの木から葉が枯れ落ちるように。

5　天ではわたしの剣に血がしみ込んでいる。見よ。これがエドムの上に下り、わたしが聖絶すると定めた民の上に下るからだ。

6　【主】の剣は血で満ち、脂肪で肥えている。子羊ややぎの血と、雄羊の腎臓の脂肪で肥えている。【主】がボツラでいけにえをほふり、エドムの地で大虐殺をされるからだ。

7　野牛は彼らとともに、雄牛は荒馬とともに倒れる。彼らの地には血がしみ込み、その土は脂肪で肥える。

＊1〜3 節　神は諸国の軍勢を滅ぼされる。

＊5 節　その場所は、エドムの地である。

＊6 節　より具体的に、そこはボツラである。

B. Isaiah 63:1-6（イザ 63：1〜6）

＊預言者イザヤとある人物の対話

＊1 節 a

1a 「エドムから来る者、ボツラから深紅の衣を着て来るこの者は、だれか。その着物には威光があり、大いなる力をもって進んで来るこの者は。」

＊1 節 b

1b 「正義を語り、救うに力強い者、それがわたしだ。」

＊この人物は、再臨のメシアである。

＊再臨の場所は、エドムの地、具体的にはボツラである。

＊衣は、血塗られている。

＊2 節

2 「なぜ、あなたの着物は赤く、あなたの衣は酒ぶねを踏む者のようなのか。」

＊3〜6 節

3 「わたしはひとりで酒ぶねを踏んだ。国々の民のうちに、わたしと事を共にする者はいなかった。わたしは怒って彼らを踏み、憤って彼らを踏みにじった。それで、彼らの血のしたたりが、わたしの衣にふりかかり、わたしの着物を、すっかり汚してしまった。

4 わたしの心のうちに復讐の日があり、わたしの贖いの年が来たからだ。

5 わたしは見回したが、だれも助ける者はなく、いぶかったが、だれもささえる者はいなかった。そこで、わたしの腕で救いをもたらし、わたしの憤りを、わたしのささえとした。

6 わたしは、怒って国々の民を踏みつけ、憤って彼らを踏みつぶし、彼らの血のしたたりを地に流した。」

＊衣についた血は、エドムの地、ボツラでの戦いの痕跡である。

＊メシアは、単独でこの戦いを戦われた。

・教会時代の聖徒たちや天使たちの参加はない。

C. Habakkuk 3:3（ハバ 3：3）

3 神はテマンから来られ、聖なる方はパランの山から来られる。セラその尊厳は天をおおい、その賛美は地に満ちている。

＊文脈は、再臨である。

＊テマン、パランの山はともにセイル山と同じ山脈にある。ボツラの近辺。

D. Micah 2:12-13（ミカ 2：12〜13）

12 ヤコブよ。わたしはあなたをことごとく必ず集める。わたしはイスラエルの残りの者を必ず集める。わたしは彼らを、おりの中の羊のように、牧場の中の群れのように一つに集める。こうして人々のざわめきが起ころう。

13 打ち破る者は、彼らの先頭に立って上って行き、彼らは門を打ち破って進んで行き、そこを

出て行く。彼らの王は彼らの前を進み、【主】が彼らの真っ先に進まれる。

＊12 節　ボツラに避難したイスラエルの残りの者は、反キリストの軍勢に包囲される。

＊13 節　メシアが彼らを導き出す。

・打ち破る者、王、【主】は、同一人物である。

E.　Judges 5:4-5（士 5：4〜5）

4　【主】よ。あなたがセイルを出て、エドムの野を進み行かれたとき、大地は揺れ、天もまた、したたり、雲は水をしたたらせた。

5　山々は【主】の前に揺れ動いた。シナイもまた、イスラエルの神、【主】の前に。

＊これが再臨を取り扱っているかどうかは、断定できない。

＊神はセイル山から、エドムの地から来られる。ボツラが位置する地である。

＊ゼカ 12：7

7　【主】は初めに、ユダの天幕を救われる。それは、ダビデの家の栄えと、エルサレムの住民の栄えとが、ユダ以上に大きくならないためである。

＊再臨されたメシアは、先ずユダの天幕を救われる。

・ユダは仮住まいの状態にある（ボツラで）。

＊次に、エルサレムの住民を救われる。

VII.　THE SEVENTH STAGE: THE BATTLE FROM BOZRAH TO THE VALLEY OF JEHOSHAPHAT（第 7 段階：ボツラからヨシャパテの谷に至る戦い）

＊戦いは、エルサレムの東壁まで続く。

＊ケデロンの谷　＝　ヨシャパテの谷

＊ヨエ 3：12〜13

12　諸国の民は起き上がり、ヨシャパテの谷に上って来い。わたしが、そこで、回りのすべての国々をさばくために、さばきの座に着くからだ。

13　かまを入れよ。刈り入れの時は熟した。来て、踏め。酒ぶねは満ち、石がめはあふれている。彼らの悪がひどいからだ。

＊ボツラで始まった戦いは、ヨシャパテの谷で終わる。

＊ヨシャパテの谷に酒ぶねが置かれているように描かれている。

＊これは、黙 14：19〜20 の酒ぶねと同じである。

・血が流れ出て、1600 スタディオン（約 320 キロ）に及ぶ。

・これは、エルサレムからアカバ湾までの距離である。

Ⅷ. THE EIGHTH STAGE: THE VICTORY ASCENT UP THE MOUNT OF OLIVES（第 8 段階：勝利の後オリーブ山に立つ）

＊ゼカ 14：3〜4a

3 【主】が出て来られる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。

4a その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。

＊3 節　オリーブ山に立つ前に、諸国との戦いがある。

＊4 節 a　戦いが終わってから、メシアはオリーブ山に立つ。

・ゼカ 12：7　ユダの天幕を先ず救い、それからエルサレムの住民を救う。

＊地殻変動が起こる（大患難時代の終わり）。

・第 7 の鉢の裁きの結果

＊黙 16：17〜21

17 第七の御使いが鉢を空中にぶちまけた。すると、大きな声が御座を出て、聖所の中から出て来て、「事は成就した」と言った。

18 すると、いなずまと声と雷鳴があり、大きな地震があった。この地震は人間が地上に住んで以来、かつてなかったほどのもので、それほどに大きな、強い地震であった。

19 また、あの大きな都は三つに裂かれ、諸国の民の町々は倒れた。そして、大バビロンは、神の前に覚えられて、神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられた。

20 島はすべて逃げ去り、山々は見えなくなった。

21 また、一タラントほどの大きな雹が、人々の上に天から降って来た。人々は、この雹の災害のため、神にけがしごとを言った。その災害が非常に激しかったからである。

＊17 節　「事は成就した」という叫び

＊18 節　史上最大の地震が起こる。

＊19 節　エルサレムは 3 つに裂かれる。バビロンは神の怒りを余すところなく受ける。

＊20 節　地形が激変する。

＊21 節　1 タラント（約 55 キロ）もある雹が降る。

＊ゼカ 14：4b〜5

4b オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。

5 山々の谷がアツァルにまで達するので、あなたがたは、わたしの山々の谷に逃げよう。ユダの王ウジヤの時、地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げよう。私の神、【主】が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る。

＊オリーブ山は 2 つに裂け、谷が東西に走る。

＊この谷は、エルサレムの住民たちが地震を逃れる避難路となる。

＊マタ 24：29

29 だが、これらの日の苦難に続いてすぐに、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。

＊暗黒が襲う。

＊ヨエ 3：14～17

14 さばきの谷には、群集また群集。【主】の日がさばきの谷に近づくからだ。

15 太陽も月も暗くなり、星もその光を失う。

16 【主】はシオンから叫び、エルサレムから声を出される。天も地も震える。だが、【主】は、その民の避け所、イスラエルの子らのとりでである。

17 あなたがたは、わたしがあなたがたの神、【主】であり、わたしの聖なる山、シオンに住むことを知ろう。エルサレムは聖地となり、他国人はもう、そこを通らない。

＊14 節　【主】の日の終わりに、ヨシャパテの谷で大群衆が敗北する。

＊15 節　それにともなって暗黒が襲う。

＊16 節 a　大地震が起こる。

＊16 節 b～17 節　ユダヤ人たちに避け所が提供される。

・ゼカリヤが語ったオリーブ山にできる谷が避難路となる。

＊一連の天変地異をもって、ハルマゲドンの戦いは終わる。

MEMO

御国以降
AFTER THE KINGDOM

＊千年王国では、堕落以降最高の環境が訪れる。
＊しかし、罪と死は、減少したとは言え、まだ存在している。
＊千年王国の終わりには、新生していない人間が増えている。

Ⅰ．THE LOOSING OF SATAN AND THE FINAL INVASION OF ISRAEL（サタンの解放とイスラエルへの侵攻）

＊千年王国は、サタンが第 5 の住まい（アブソス）から解放された時に終わる。
＊黙 20：7〜10

7　しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され、
8　地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海べの砂のようである。
9　彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。
10　そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。

＊7 節　サタンはアブソスから解放される。
＊8 節　サタンは、諸国の民の間で欺きの業を行う。
・この時点では、多くの不信者が存在している（100 歳以下）。
・ゴグとマゴクは、欺きの業が地の果てまで影響を与えていることを示す。
・エゼ 38：1〜39：16　ゴグとマゴグの侵攻は、大患難時代の前に起こる。
・イスラエルに侵攻するという点で、似ている。
＊9 節　諸国の軍勢がエルサレムを包囲する。
・彼らは、天からの火で焼き尽くされる。
＊10 節　サタンは、火の池に投げ込まれる（第 6 番目で最後の住まい）。
・そこには、千年前から反キリストと偽預言者が投げ込まれている。
・これで、サタンの経歴は終焉を迎える。

＊最後の反乱が終わり、権威の移行がある。
＊1 コリ 15：24〜28

24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。
25 キリストの支配は、すべての敵をその足の下に置くまで、と定められているからです。
26 最後の敵である死も滅ぼされます。
27 「彼は万物をその足の下に従わせた」からです。ところで、万物が従わせられた、と言うとき、万物を従わせたその方がそれに含められていないことは明らかです。
28 しかし、万物が御子に従うとき、御子自身も、ご自分に万物を従わせた方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。

＊イエスは、死と復活のゆえに、メシア的王国での権威を有しておられる。
＊マタ 28：18b
18b 「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。」
＊今この権威は、教会を通して執行されている。
＊将来は、千年王国において執行される。

＊24 節　権威は、キリストから父なる神に渡される。
＊25 節　キリストの敵はすべて服従させられる。
＊26 節　最後の敵は、サタンではなく死である。
・千年王国においても死は存在する。
・死の原因を作ったサタンが最終的に裁かれるまで、死は存在する。
＊27〜28 節　メシア的王国は終わりを迎える。
・万物がメシアに服従する。
・御子も含めて万物が、父なる神に服従する。
・「これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです」

II．THE GREAT WHITE THRONE JUDGMENT（大いなる白い御座の裁き）

＊黙 20：11〜12
11 また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。
12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。
＊11 節 a　白い御座に座すお方
・メシアであるイェシュアであろう。

・イエスにすべての裁きが委ねられている（ヨハ 5：22）。

＊11 節 b　創 1 章以来存在している天と地は、跡形もなくなる。

・千年王国で修復された天と地は、人間の反抗によって汚された。

＊12 節　すべての時代の不信者が裁かれる。

・救われているかどうかの裁きではない。

・罰の軽重を決めるための裁きである。

A. The Principle of Degrees of Punishment（罰の軽重を決めるための原則）

＊与えられていた情報量の違い

＊マタ 11：20〜24

20 それから、イエスは、数々の力あるわざの行われた町々が悔い改めなかったので、責め始められた。
21 「ああコラジン。ああベツサイダ。おまえたちのうちで行われた力あるわざが、もしもツロとシドンで行われたのだったら、彼らはとうの昔に荒布をまとい、灰をかぶって悔い改めていたことだろう。
22 しかし、そのツロとシドンのほうが、おまえたちに言うが、さばきの日には、まだおまえたちよりは罰が軽いのだ。
23 カペナウム。どうしておまえが天に上げられることがありえよう。ハデスに落とされるのだ。おまえの中でなされた力あるわざが、もしもソドムでなされたのだったら、ソドムはきょうまで残っていたことだろう。
24 しかし、そのソドムの地のほうが、おまえたちに言うが、さばきの日には、まだおまえよりは罰が軽いのだ。」

＊ルカ 12：47〜48

47 主人の心を知りながら、その思いどおりに用意もせず、働きもしなかったしもべは、ひどくむち打たれます。
48 しかし、知らずにいたために、むち打たれるようなことをしたしもべは、打たれても、少しで済みます。すべて、多く与えられた者は多く求められ、多く任された者は多く要求されます。

＊犯した罪の軽重の違い

＊ヨハ 19：11

11 イエスは答えられた。「もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに渡した者に、もっと大きい罪があるのです。」

＊不信者は、白い御座の裁きに会う。
＊罰の軽重は、その人の行為によって決まる。

B. The Books Which Determine the Degrees of Punishment（罰の軽重を決める書物）

＊黙 20 章　いのちの書、数々の書物
・3 つの書の区別　いのちの書、数々の書、小羊のいのちの書

1. いのちの書

＊詩 139：16

16 あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。

・誕生した人の名が記されている。

＊黙 3：5

5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表す。

・信者の名は、そこに留まる。

＊詩 69：28

28 彼らがいのちの書から消し去られ、正しい者と並べて、書きしるされることがありませんように。

・不信者が死ぬと、その名は消される。
・信者が救いを失うという意味ではない。

2. 数々の書

＊12 節　この段階で、数々の書が用いられる。
・その人の行動や神の啓示に対する応答が記されている。

3. 小羊のいのちの書

＊信者の名が記されている。
＊黙 13：8

8 地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。

＊全地が造られる前から、信者の名は記されている。
＊黙 17：8b

8b　地上に住む者たちで、世の初めからいのちの書に名を書きしるされていない者は、その獣が、昔はいたが、今はおらず、やがて現れるのを見て驚きます。

＊詩 69：28

28　彼らがいのちの書から消し去られ、正しい者と並べて、書きしるされることがありませんように。

Ⅲ．THE SECOND RESURRECTION（第 2 の復活）

＊黙 20：13

13　海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行いに応じてさばかれた。

＊第一の復活は信者のみ。

＊第二の復活は不信者のみ。

＊両者の間には、千年の隔たりがある。

＊第一の復活の順番

・メシア（初穂）、教会時代の聖徒、旧約時代の聖徒、患難期の聖徒

＊第二の復活の順番

・反キリスト、すべての時代の不信者（千年後）

＊不信者は復活して、白い御座の裁きに立つ。

Ⅳ．THE SECOND DEATH: THE LAKE OF FIRE（第二の死：火の池）

＊黙 20：14～15

14　それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。

15　いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

＊第二の復活に続いて、第二の死がやって来る（火の池）。

＊旧約時代の人たちの魂は、死ぬとシオール/ハデスに行った。

・旧約のいけにえは、罪を覆うだけで取り除くことはできない（ヘブ 10：4）。

・いけにえは、聖徒たちを天国に送ることができなった。

＊シオール/ハデスには 2 つの場所があった。

＊ルカ 16：19〜31

19 ある金持ちがいた。いつも紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。
20 ところが、その門前にラザロという全身おできの貧しい人が寝ていて、
21 金持ちの食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼のおできをなめていた。
22 さて、この貧しい人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。
23 その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。
24 彼は叫んで言った。『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』
25 アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きている間、良い物を受け、ラザロは生きている間、悪い物を受けていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しみもだえているのです。
26 それればかりでなく、私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることもできないのです。』
27 彼は言った。『父よ。ではお願いです。ラザロを私の父の家に送ってください。
28 私には兄弟が五人ありますが、彼らまでこんな苦しみの場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』
29 しかしアブラハムは言った。『彼らには、モーセと預言者があります。その言うことを聞くべきです。』
30 彼は言った。『いいえ、父アブラハム。もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ってやったら、彼らは悔い改めるに違いありません。』
31 アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』」

＊23〜25 節、28 節　不信者が行く場所は、今日地獄と呼ばれる場所である。

＊22 節　義人は、別の場所（アブラハムのふところ）に行った。

＊25 節　これは慰めの場所ではあるが、天国ではない。パラダイスと呼ばれる。

＊ルカ 23：43

43 イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」

＊26 節　両方の場所の間には、深い淵が横たわっている。

＊旧約の聖徒たちが死ぬと、肉体は葬られ、魂はアブラハムのふところ、すなわちパラダイスに行った。
＊旧約の不信者たちが死ぬと、肉体は葬られ、魂は地獄に行った。

＊メシアが死んだ時、将来の罪も過去の罪も、その代価が支払われた。
・ロマ 3：25、ヘブ 9：15
・旧約の聖徒たちの罪は取り除かれた。

＊エペ 4：8〜10
8 そこで、こう言われています。「高い所に上られたとき、彼は多くの捕虜を引き連れ、人々に賜物を分け与えられた。」
9 ――この「上られた」ということばは、彼がまず地の低い所に下られた、ということでなくて何でしょう。
10 この下られた方自身が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも高く上られた方なのです――
＊メシアの肉体は墓に留まり、魂はシオール/ハデスのパラダイス側に下った。
＊メシアは、贖いの業は終わったと宣言された。
＊昇天の際に、旧約の聖徒たちの魂は、アブラハムのふところ（パラダイス）から天に上げられた。
＊それ以降、シオール/ハデスのパラダイス側は消滅した。

＊2 コリ 5：8
8 私たちはいつも心強いのです。そして、むしろ肉体を離れて、主のみもとにいるほうがよいと思っています。
＊今日、不信者が死ぬと、肉体は葬られ、魂は地獄に行く。
＊信者が死ぬと、肉体は葬られ、魂はただちに天に行く。

＊ピリ 1：23
23 私は、その二つのものの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。
＊天にいるとは、キリストとともにいることである。
＊第一の復活：信者の肉体が復活し、魂と結合する。
・教会時代の聖徒の復活は、携挙の時に起こる。
・旧約の聖徒と大患難時代の聖徒の復活は、再臨後に起こる。

＊第二の復活：不信者の肉体が復活し、地獄から出された魂と結合する。

・シオール/ハデスの地獄に当たる場所は、消滅する。
・火の池が、不信者の永遠の住まいとなる。肉体と魂の苦しみの場所。

＊信者の永遠の住まいは、天ではない。新しいエルサレムがそれである。

永遠の秩序
THE ETERNAL ORDER

INTRODUCTION（はじめに）

＊メシア的王国は旧約預言のピークである。
＊永遠の秩序は、新約預言のピークである。
＊黙 1～20 章の情報は、旧約聖書にもある。
＊黙 21～22 章は、新しい啓示である。

＊ダビデ契約
①永遠の王朝（メシアであるイェシュアによって保証される）
②永遠の王国
③永遠の王座
＊神の支配は、永遠の秩序においても続く。上記②と③が保証される。

＊黙 21：1～22：5 に関する学び

Ⅰ．THE PASSING AWAY OF THE OLD ORDER AND THE CREATION OF THE ETERNAL ORDER: REVELATION 21:1-8（古い秩序の消滅と永遠の秩序の創造：黙 21：1～8）

＊白い御座の裁きに備えて、古い秩序が消滅する。
＊白い御座の裁きに続いて、永遠の秩序が創造される。
＊黙 21：1～2

1 また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。
2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。

＊1 節　新しい天と新しい地が創造され、古い秩序が消え去る。
・新天新地には、海はない。
・現在の地は、元々宝石で覆われていた。

・エゼ 28：11〜16　サタンの第 2 の住まいであった。
・サタンが裁かれた時、地も裁かれた。
・地が海で覆われることは、裁きの一部であった（創 1：2）。
＊2 節　新天新地は創造されるが、天のエルサレムはすでに存在している。
・天のエルサレムが、花嫁のように整えられて新しい地に下ってくる。

＊新しいエルサレムについての情報は、この箇所にはあまりない。
＊ガラ 4：26

26 しかし、上にあるエルサレムは自由であり、私たちの母です。

＊地上のエルサレムは、常に諸勢力による支配を受けたが、天のエルサレムは永遠に自由である。
＊ヘブ 11：9〜10

9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束をともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。
10 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。

＊ヘブ 12：22〜24

22 しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。
23 また、天に登録されている長子たちの教会、万民の審判者である神、全うされた義人たちの霊、
24 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る注ぎかけの血に近づいています。

＊天のエルサレムの住民たち
①三位一体の神
②天使たち
③教会時代の聖徒たち
④「全うされた義人たちの霊」（旧約時代の聖徒たち）
⑤書かれていないが、大患難時代の聖徒たち、御国の聖徒たちも含む。

＊黙 21：3〜4

3 そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、
4 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦

しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

①神の幕屋が人とともにある。

・シャカイナグローリーの輝き

・ヘブ 12：22〜24 の成就である。

②創 3：16〜19

16 女にはこう仰せられた。「わたしは、あなたのうめきと苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。しかも、あなたは夫を恋い慕うが、彼は、あなたを支配することになる。」

17 また、人に仰せられた。「あなたが、妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならない。

18 土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならない。

19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない。」

・これらの呪いがすべて取り除かれる。

・「もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない」

＊黙 21：5〜8

5 すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」また言われた。「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」

6 また言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、価なしに飲ませる。

7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。

8 しかし、おくびょう者、不信仰の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。これが第二の死である。」

＊5 節　新天新地を創造するという約束

＊6 節　いのちの水の泉の約束

＊7 節　信者が相続するのは、新天新地、新しいエルサレム。

＊8 節　不信者が相続するもの。火の池での第 2 の死。

II．THE ETERNAL NEW JERUSALEM: REVELATION 21:9-22:5（永遠の新しいエルサレム：黙 21：

9〜22：5）

＊新しいエルサレムの描写。情報が限られている。

A. The Revelation of the Establishment of the City: Revelation 21:9-10（新しい町の設立に関する啓示：黙 21：9〜10）

9 また、最後の七つの災害の満ちているあの七つの鉢を持っていた七人の御使いのひとりが来た。彼は私に話して、こう言った。「ここに来なさい。私はあなたに、小羊の妻である花嫁を見せましょう。」

10 そして、御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行って、聖なる都エルサレムが神のみもとを出て、天から下って来るのを見せた。

＊黙 21：2 を詳しく説明している。

＊ヨハネは、将来の啓示を見るために上るように招かれた（黙 4：1）。

＊9 節　小羊の花嫁の住まいについて啓示が与えられる。

＊新しいエルサレムは、すでに存在しており、天から下ってくる。

B. The Description of the New Jerusalem: Revelation 21:11-22:5（新しいエルサレムの描写：黙 21：11〜22：5）

①黙 21：11

11 都には神の栄光があった。その輝きは高価な宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった。

・栄光とは、シャカイナグローリーである。

・シャカイナグローリーの最終的な住まいは、新しいエルサレムである。

②黙 21：12〜13

12 都には大きな高い城壁と十二の門があって、それらの門には十二人の御使いがおり、イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあった。

13 東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。

・城壁は、都の安全性を示している。サイズはここでは示されていない。

・合計 12 の門がある。それぞれが 12 人の御使いに委ねられている。

・イスラエル 12 部族の名が書かれている。

・「東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった」

③黙 21：14

14 また、都の城壁には十二の土台石があり、それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあった。

・土台石は、永続性の象徴である。

・12 使徒の名が記されている。

④黙 21：15～17

15　また、私と話していた者は都とその門とその城壁とを測る金の測りざおを持っていた。

16　都は四角で、その長さと幅は同じである。彼がそのさおで都を測ると、一万二千スタディオンあった。長さも幅も高さも同じである。

17　また、彼がその城壁を測ると、人間の尺度で百四十四ペーキュスあった。これが御使いの尺度でもあった。

・史上最大規模の町である。
・都は四角で、その長さと幅は同じである。
・一万二千スタディオンあった。長さも幅も高さも同じである。
・その城壁は、人間の尺度で百四十四ペーキュスあった。

⑤黙 21：18～21

18　その城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。

19　都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイヤ、第三は玉髄、第四は緑玉、

20　第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉、第十は緑玉髄、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。

21　また、十二の門は十二の真珠であった。どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは、透き通ったガラスのような純金であった。

・城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。
・12 の土台石（碧玉、サファイヤ、玉髄、緑玉、赤縞めのう、赤めのう、貴かんらん石、緑柱石、黄玉、緑玉髄、青玉、紫水晶）
・エゼ 28：13　最初の地には 10 の宝石があった。
・12 の門は、12 の真珠でできている。
・都の大通りは、透き通ったガラスのような純金でできている。

⑥黙 21：22～24

22　私は、この都の中に神殿を見なかった。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だからである。

23　都には、これを照らす太陽も月もいらない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。

24　諸国の民が、都の光によって歩み、地の王たちはその栄光を携えて都に来る。

・神殿がない。
・太陽と月もない。
・最初の創造では、太陽と月はなかった。創 1 章の 4 日目の創造。
・異邦人とイスラエル人の区別はあるが、役割の違いはない。

⑦黙 21：25～27

25 都の門は一日中決して閉じることがない。そこには夜がないからである。
26 こうして、人々は諸国の民の栄光と誉れとを、そこに携えて来る。
27 しかし、すべて汚れた者や、憎むべきことと偽りとを行う者は、決して都に入れない。小羊のいのちの書に名が書いてある者だけが、入ることができる。

・12 の門が閉ざされることはない。
・夜もない。
・闇はサタンの堕落の結果である（創 1：2）。
・義なる異邦人は、栄光を携えてそこを通過する。
・不信者は、火の池に閉じ込められている。

⑧黙 22：1〜2a

1 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、
2a 都の大通りの中央を流れていた。

・神と小羊の御座からいのちの水の川が流れている。

⑨黙 22b

2b 川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。

・エデンの園にあったいのちの木が戻ってくる（創 2：9、3：22、24）。
・毎月、12 種の実がなる。
・なんらかの暦が存在する。
・「諸国の民をいやし」とは、病をいやすという意味ではなく、健康を与えるという意味である。
・ここでも、異邦人とイスラエル人の区別が語られている。

⑩黙 22：3〜4

3 もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との御座が都の中にあって、そのしもべたちは神に仕え、
4 神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。

・のろいは一切存在しない。
・彼らの額には、イエスの名がついている。

⑪黙 22：5

5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは永遠に王である。

・シャカイナグローリーの存在が再確認されている。
・神ご自身が、光となられる。

MEMO

フルクテンバウムセミナーDVD／CD

いずれもテキスト付き

2014 年『**携挙・大患難時代・そしてユダヤ人の運命**』 DVD 8 枚組／CD 8 枚組

2013 年『**聖書は千年王国について何を教えているか**』 DVD 8 枚組／CD 8 枚組

2012 年『**聖書が教える死後の世界 ― 個人的終末論 ―**』 DVD 8 枚組／CD 8 枚組

2011 年『**聖書が教える救いとは**』 DVD 8 枚組／CD 8 枚組

「救いの 10 の側面」「33 の事項：位置的真理に関する学び」

2010 年『**天使論、サタン論、悪霊論**』 DVD 8 枚組／CD 8 枚組

2009 年『**終末論とイスラエル**』 DVD 8 枚組／CD 8 枚組

「ロマ書 9 章～11 章の研究」「ロマ書とユダヤ人」

2008 年『**神の人類救済プログラム**』 CD 8 枚組

2007 年『**三位一体**』 CD 4 枚組

2007 年『**旧約聖書におけるメシア預言**』 CD 4 枚組

2006 年『**イスラエル学**』 CD 8 枚組

2005 年『**ユダヤ的視点から見たメシアの生涯**』 CD 12 枚組

2003 年『**ヨハネの黙示録**』 CD 6 枚組

2002 年『**聖書の八つの契約**』 CD 9 枚組

2001 年『**イスラエルの祭りに隠されたイエス・キリスト**』 CD 10 枚組

2001 年『**アブラハム契約の歴史的展開**』 CD 2 枚組

ご注文、お問い合せはハーベスト・タイムまで
TEL：055-993-8880／FAX：055-993-8883
オンラインショップ：http://harvestshop.net/

無断複製・転載を禁じます

2015 年 5 月開催（大阪、東京）